
IS ~運命を切り裂く剣~

ジョーカーアンデッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS～運命を切り裂く剣～

【NNコード】

N6220Z

【作者名】

ジョーカー・アンデッド

【あらすじ】

ISを唯一使える男がいた。
運命を変えた一人の男がいた。
この二人が出会うとき、何かが起こるー。
運命の切り札を掴み取れ！

プロローグ（前書き）

独自設定を、含んでおつます。

まだまだ未熟者ですが、宜しくお願いします。

プロローグ

遠い昔、1万年に一度行われる『バトルファイト』と言われる自らの種族をかけた戦いが行われ、ヒューマンアンデッドが勝った。その数百年後、再び、人々が彼らの封印を解き『バトルファイト』が行われた。

そして、怪人たちは戦いはじめ、人々をも巻き添えにしていった。それを食い止めるために開発された『ライダーシステム』と呼ばれる物を使って、人々を守るために『仮面ライダー』と呼ばれる4人が立ち向った。

恋人の仇を打ち、おのれの恐怖心をも打ち勝つために戦ったギャレン。

邪悪な心に立ち向かうために戦ったレンゲル。

怪人から人間になるために戦ったカリス。

そして、人類を救うために戦ったブレイド。

『バトルファイト』も残り一人になった。

ギラファクワガタの先祖…ギラファアンデッド。

すべてを破壊する存在…ジョーカーアンデッド、もとい、カリス。

ギャレンは、ジョーカーアンデッドが地球を滅ぼすわけがないと彼を信じ、ギラファアンデッドに単身で立ち向かった。

そして、一斉にダークローチが世界に出てきた。

レンゲルは、それをやめさせるためにジョーカーに立ち向かったが、本能にあらがえず、ジヨーカーアンデッジがレンゲルを倒してしまつ。

そして、残つたのは、唯一アンデッジを封印できるブレイドヒジヨーカーアンデッジ。

だが、ブレイドは自らがアンデッジになることで『バトルファイ

ト』に終止符を打たせなかつた。

時は流れ、約200年後。

篠ノ之束が作った『IS』は、世界に流通し始めたが、同時に戦争にも使われる可能性もあると疑い、『IS』の中心部であるコアを427個残し、行方をくらます。

ただ、『IS』は、女性にしか使えないといつことで女尊男卑になつてしまつた。

だが、女性にしか使えない『IS』を唯一使えた男、織斑一夏がいた。

そして、裏では『亡国機業』が、全世界を征服するための準備をしていた。

彼らは、見事、『亡国機業』の悪事をつぶせるのか！

運命の切り札を掴み取れ！

プロローグ（後書き）

「メンテ、お待ちしております。」

プロローグ2（前書き）

グダグダになってしまった。

しかも、まだプロローグだ啊！

束ちゃんのセリフもおかしくなった気がするぅ！

それでも、読みたい人はどうぞー。

プロローグ2

「ここはとあるラボ。

ここでは、男女2人がひつそりと暮らしていた。

ガシャーーン……ウイーーーーン……ガガツ、ガガガガ

そして、今、ここで作業をしている彼女・篠ノ之 束は、427個あるコア以外のコアを使って無人機の『IS』を作っていた。

「束ちゃん！夕食できたよ！」

「はーーい！いま行つきました！」

そういうて、束は、彼女を呼んだ男・剣崎 一真に駆け寄つていつた。

「今日は、ハンバーグだ。」

「やつたー！やつたー！」

と、いい、彼に抱き着いた。

「わかつた、わかつた。」

そして、頭を撫でながら食卓へと向かつた。

一真は、食卓でテレビを見てた。

「へえ、男子が『T.S』を使える…か。」

「あつ、ソースとつて～～！」

「ああ、わかった。それで、ちょっと聞きたいことがあるんだけどさ。」

男が『T.S』を使えることのあるの?」

「ないない！あつたら男装した人か～、特殊な人間だね～。
あつ！そつそつ、そのことでも、お願いがあるんだけどさ。」

「えつ？なに。」

久しぶりの、お願いだなあ～。と、思い、そのお願いを聞き入れることにした。

あまり、束からお願いされたことがなかつたからだ。

「あのさあ、こつくんの通つてる『T.S学園』を守つてほしいんだけどいいかなあ？」

「こつくんって、織斑 一夏のこと?」

「うん! そうだけどー!」

えつ、いつくんって一夏のことなんだ。」「あれつ、でもなんでいつくんなんて言つてるの?」「なんて言つてみたら、「いつくんと友達なんだよ。」と、言われ、大変なんだうなあ」と思った。

「で、なんで? また興味がわいたの?」

そう、篠ノ之 束は、興味がわいた人にしか話をしたことがほとんどない。

剣崎 一真も彼女にあること気に入られ、彼女のラボに(強制的に)住むことになった。

「違う違う。まあ、それも少しばら理由に入るんだけど。で、いつくんが狙われてるんだよ。亡国機業に。」

「亡国機業に。」と、言われたときに一真もタダ事ではないと思いつかれていた。

「でも、何故、彼が亡国機業に狙われているんだ?」

そうだ。彼が狙われる理由がない。
なら、何故?

「たぶん、彼にもうすぐ贈られる『白式』が狙われてるんだと思うんだけど、『白式』は、戦闘能力は十分すぎるんだけど、テスト操縦者が乗った時は、IJS適正が全員じだつたんだ。」

「で、その『白式』が、今度、『IJS学園』に置かれることになつたからってわけなんだ。」

「それで、その『白ばく』との操縦者の織斑一夏といつしょに
おつてくれと。」

「そつなんだけどいいかなあ？」
と、上田遣い+涙田で言われた。

もともと、断るつもりはなかつたため、無駄なんだが。

「行くから、元に戻つていいよ。」

「そりだと思つたんだよー。」
そういう、後ろからだしたのは、偽造した教員免許と札束を手渡
した。

「なにこれは？特にこの免許なんだけど。」

「これは～、偽造した『ヒューリイ学園』の教員免許、これで怪しまれ
ずに学校に教師として行けるね。」

（偽造した時点ですでに怪しまれると思つんだが…。）

「あと、このお金は旅行代ね。おるのは良こナギ、少しほ、少しあ、ゆつ
くつしてね～。」

「えつーあつ、ありがとつー。」

「じゃあ、今日は寝よつか。」
と、言ひ食べ終わつた皿を台所に置く。

「わかつた。じゃあ、おやすみ。」

「おやすみなさい！」

そして、夜は更けていった。

次の日、一真は自分のバイク、『ブルースペイダー』に乗り、『IS学園』に向かった。

プロローグ2（後書き）

「メンテお待ちしておつまます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6220z/>

IS ~運命を切り裂く剣~

2011年12月21日16時45分発行